

JR連合 政策News

第227号

2012年9月10日

国土交通大臣へ鉄道の早期復旧に伴う公的支援を強く求める！

九州北部豪雨により被災した鉄道の早期復旧を図るべく、
JR九州労組及びJR連合国会議員懇談会とともに国交大臣へ要請！

JR連合は、9月5日、羽田国土交通大臣へ要請書を提出、九州北部豪雨により被害を受けた鉄道の早期復旧ならびに復旧に際して公的支援を図ることを求めた。同要請には、JR連合の他、JR九州労組及びJR連合国会議員懇談会より高木義明衆議院議員（顧問）、榛葉賀津也参議院議員（副会長）、三日月大造衆議院議員（事務局長）も同行頂いた。

7月11日から14日にかけて発生した「九州北部豪雨」により、JR九州の豊肥本線、日田彦山線、久大本線等で、計200カ所以上に亘り路盤流出、土砂流入、橋梁流出などの甚大な被害が生じた。現在においてもなお、豊肥本線は一部区間が不通となっており、特に立野～豊後竹田間は復旧に概ね1年程度かかる見込みとなっているなど、通学客をはじめ地域住民の生活に支障を来している。

JR連合は8月にJR九州労組とともに現地へ入り、復旧作業にご尽力頂く組合員の激励を行うとともに、被害状況の詳細把握を行ってきた。今回の被害は、築堤崩壊やトンネル変状などの深刻な被害が故、復旧には大規模な工事を要し、莫大な費用を要することが想定されている。また、線路に隣接する山林から流れ込んだ土砂が原因で築堤が崩壊する事象、河川における砂防堰堤の崩壊などにより鉄道橋に破損が生じており、事業者単体での鉄道復旧では弥縫策になりかねない。復旧に際しては、鉄道事業者のみならず、線路沿線の山林、河川などに対する国、地方自治体等の治山、治水事業の強化といった総合的な対策を速やかに講じる必要がある。

従って、今回の羽田国土交通大臣との会談では、①鉄道復旧に向けた公的支援、②総合的な鉄道防災に向けた取り組み、の2点について要望を行った。

羽田国土交通大臣からは「自分自身もこの目で被害状況を確認させていただいた。被災規模の大きさに自然の猛威を思い知らされたところである。鉄道復旧にあたっては、被災状況を十分加味し、支援のあり方について検討を行ってまいる所存である」との見解が示された。

JR連合はJR九州労組と連携を強化し、地域住民の重要な足である鉄道の早期復旧に向けて今後も政策面での働きかけ等の取り組みを強化していく。

